

# 原稿用紙パッケージ

ver 1.0

1999/01/17

原稿用紙パッケージをダウンロードしていただき、誠にありがとうございます。パッケージと呼んでいますが、実際は genkou.cls というクラスファイルを中核とした一連の関連ファイル群をまとめたものです。

## 1 なにをするもの？

このマクロの目的は  $\text{\TeX}$  で原稿用紙のような体裁を実現することです。文字と罫目を同時に出力します。市販の原稿用紙の罫目にあわせて文字を印刷するものではありません。

## 2 動作環境

$\text{\pTeX}$  2<sub>ε</sub> 専用です。その他に、color パッケージの usenames オプションに対応する DVI ドライバと、METAFONT が使用可能であることが必要です。動作確認は、dviout for Windows (color special に対応したバージョン) と dvipsk(win32) + GSview でおこないました。

## 3 インストール

以下の準備が必要です。

1. genkou.cls, tgenkou.clo, ygenkou.clo, ribon.clo, binsen.clo, genkomac.sty, genk-ouid.tex, genkin.tex の 7 つのファイルを  $\text{\TeX}$  が見つけられる適当なフォルダにコピーしてください。
2. gtmin10.tfm と gmin10.tfm を、min10.tfm などの JFM ファイルと同じフォルダにコピーし、gtmin10.tfm と gmin10.tfm を DVI ドライバから使用できるように設定してください。やり方は、DVI ドライバのマニュアルなどを参照してください。
3. gerib10.mf から TFM ファイルと 21.5pt の PK フォントを使用する解像度に合わせて作成してください。300dpi, 360dpi, 600dpi, 720dpi 用の PK フォントを同梱していますので、gerib10.tfm と使用する解像度に合った gerib10.\*PK を適当なフォルダに移動しても結構です。
4. 必要に応じて、genkoid.tex を書き換えてください。クラスオプションに「名前」を指定した場合、このファイルで指定した文字を原稿用紙に挿入します。

## 4 使い方

documentclass に genkou.cls を指定し、必要に応じてオプションを指定します。指定できるオプションは次の 5 種類（括弧内はオプション名）です。

1. 組み方（横，縦，リボン，便箋）
2. 用紙サイズ（B5，A4，B4）
3. 罫目の色（空，海，苺，春，墨，秋，森，夜，鮭，鼠，松，堇，無）
4. 禁則処理（禁則）
5. 名前入れ（名前）

オプションが無指定のときは、「縦書き，A4，松，禁則処理なし，名前なし」になります。同じ種類のオプションを複数指定してはいけません。

指定例：\documentclass[横,B5,森]{genkou}

### 4.1 組み方

横書き，縦書き，リボン付き（義務教育でよく見掛ける体裁のもの），便箋風（縦書きで行間に罫線の入るもの）の 4 種類から選ぶことができます。

### 4.2 用紙サイズ

用紙サイズオプションは，組み方に縦か横を指定した場合にのみ意味を持ちます。指定可能な組み合わせは，＜横,B5＞，＜横,A4＞，＜縦,A4＞，＜縦,B4＞の 4 種類です。組み方にリボンや便箋を指定した場合は，用紙サイズは自動的に決められます。

### 4.3 罫目の色

13 種類の色（無色を含む）から選ぶことができます。どのような色になるかは，実際にお試しください。

### 4.4 禁則処理

禁則処理をするかどうかを指定します。無指定では罫目を埋めるためにほとんど禁則処理をしません。句読点など一部の文字のみが罫目の外にぶら下げられるようになります。オプションに「禁則」を指定した場合は，アスキーの配布に含まれる kinsoku.tex に準拠して禁則処理をおこないます。

## 4.5 名前入れ

オプションに「名前」を指定すると原稿用紙の左隅に genkouid.tex で指定した文字を挿入します。genkouid.tex に次のような一行を書き込んで指定します。

```
\名前{ほげほげ}
```

\名前コマンドの引数には、中括弧を含むマクロを入れてはいけません。たとえば、\hspace{10mm}などを含めたい場合には、\def\SPACE{\hspace{10mm}}などとしてから、\名前{ほげ\SPACE ほげ} のようにしてください。

## 5 制限事項

LaTeX 標準のクラスファイル用のコマンドを一部使用可能にしていますが、エラーにならないようにしてあるだけで、機能上の互換性はありません。たとえば、\section で連番を振ることはできますが、目次に抽出することはできません。

1 バイトの英数記号を使うと罫目から文字がずれます。「禁則」オプションを指定しているときは、後述の\oubun コマンドを使うことで、欧文の後の和文が罫目に収まるようになります。「禁則」を指定していない場合は、\oubun コマンドは有効ではありません。

## 6 コマンド?環境一覧

使用可能なコマンドと環境です。使用例は、添付のサンプルをご覧ください。

### 6.1 コマンド

<code>\空行</code>	空白行を作ります。★注意：ページの始めでは無効です。
<code>\一字下げ</code>	段落の始めを一字下げするようになります。全角空白を入れるのと同じ結果になります。初期値では字下げはありません。
<code>\oubun</code>	1 バイトの文字を使ったあとのずれをある程度解消します。 <code>\oubun{Donald E. Knuth}</code> のように使います。段落の終わり付近で使うと笑えます。クラスオプションに「禁則」を指定した場合のみ有効です。
<code>\ruby</code>	ルビをふります。 <code>\ruby{漢字}{かん, じ}</code> のように使います。ルビは、文字ごとに半角のカンマで区切ってください。6 文字まで一度にルビを振れます。段落の最初の文字にルビを振る場合は、 <code>\ruby*</code> としてください。 <code>\ruby</code> コマンドを続けて使ってはいけません。7 文字以上続けてルビを振る場合は、7 文字め以降には行頭と同様に <code>\ruby*</code> を使ってください。
<code>\part</code>	「本当の」 <code>\part</code> の代わりです。連番をふります。前後で改頁します。
<code>\chapter</code>	「本当の」 <code>\chapter</code> の代わりです。連番をふります。手前で改頁します。
<code>\section</code>	「本当の」 <code>\section</code> の代わりです。連番をふります。
<code>\subsection</code>	「本当の」 <code>\subsection</code> の代わりです。連番をふります。

`\subsubsection` 「本当の」`\subsubsection` の代わりです。連番をふりません。  
`\pagestyle` 無指定では、ページ番号は左上に下線付きで出力されます。`\pagestyle` に `plain` を指定することにより、下中央に出力するようになります。

★これらのコマンド、環境は、「リボン」スタイルではうまく動作しないことがあります。リボンスタイルは、べた書き用とご理解ください。

## 6.2 環境

**enumerate 環境** 数字を付けた箇条書き環境です。「本当の」`enumerate` 環境の代わりに作りましたが、ネスティングには対応していません。

**itemize 環境** ●付きの箇条書き環境です。「本当の」`itemize` 環境の代わりに作りましたが、ネスティングには対応していません。

**biao 環境** `description` 環境に似た見出し付きの箇条書き環境です。オプション引数に文字列を指定すると、その文字列の幅がラベルの幅になります。無指定では全角五文字分の幅です。

**ribon 環境** 組み方のオプションに「リボン」を指定した場合には、`\begin{document}` の直後で `\begin{ribon}` として、`\end{ribon}` の直前で `\end{ribon}` としてください。`ribon` 環境は「リボン」オプション指定のときのみ意味を持ちます。

## 7 配布?改変

配布?改変はご自由にどうぞ。作者に許可を得る必要はありません。ただし、サンプルに含まれる短歌の著作権は平成太郎さん (NAH01433) にありますので、本アーカイブの一部としての再配布以外の目的での利用を希望される場合には、平成太郎さんに許諾を求めてください。

## 8 謝辞

本マクロの作成にあたっては、NIFTY SERVE/FTEX フォーラムのみなさまに多々お世話になりました。

句読点や拗促音などをプロポーショナル処理しない専用 JFM ファイルの作り方をトニイさん (PAG01322) にご教示いただきました。

マクロについて、大石勝さん (DZH00446)、美吉明浩さん (JCA01275)、tDB さん (CQB00260) にご助言をいただきました。

原稿用紙の体裁について北條 (itam) さん (YRL02360)、Moriyama さん (JCF00714) にご助言をいただきました。

そして原稿用紙体裁のマクロを所望され、本マクロ作成のきっかけを作られた平成太郎さん (NAH01433) には、マクロ作成過程の全面にわたってご提案?ご助言をいただくとともに、マクロの不出来さを覆い隠してくれるすばらしい見本をご提供いただきました。

あらためてお礼を申し上げます。

1999/01/17 bookworm (BYV01204)